

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

集中改革期間

2014・2015年度
《主担当府省庁等》

2016年度

2017
年度

2018
年度

2019
年度

2020
年度～

KPI
(第一階層)

KPI
(第二階層)

通常国会

概算要求
税制改正要望等

年末

通常国会

＜⑪民間の大胆な活用による適正な民間委託等の加速＞

○業務改革モデルプロジェクト

助言通知発
出(平成27
年8月28日
付総務大臣
通知)

業務改革モデルプロジェクト

(窓口業務のアウトソーシング、総合窓口の導入、庶務業務の集約化)

- 地方自治体において、①住民サービスに直結する窓口業務、②業務効率化に直結する庶務業務等の内部管理業務に焦点を当て、民間企業の協力のもとBPRの手法を活用しながらICT化・オープン化・アウトソーシングなどの業務改革を一体的に行い、住民の利便性向上につながるような取組をモデル的に実施。モデル事業の実施を通じて改革の手法を確立し、その手法を横展開。
- 政令指定都市等、規模の大きな自治体は一定取組が進んでいることから、人口規模10～20万人程度の団体を主なターゲットとして、2016～18年度の各年度においてモデルとなるような改革を実践してもらう「業務改革モデルプロジェクト」を6団体において実施。
- BPRの実施等計画策定段階において必要な経費について国費で助成。

モデル自治体
6市町村

モデル自治体の取組の他の自治体への波及

モデル自治体
6市町村

・総務省におけるヒアリング等を通じた働きかけ
・各都道府県における管内市町村への働きかけ

モデル自治体
6市町村

それぞれの
取組について
全ての都道
府県において
新たに取組
む市町村が
拡大

成果についてモデル
自治体で検証

成果についてモデル
自治体で検証

成果についてモデル
自治体で検証

歳出効率化等の成果の把握手法の検討・確立

上記手法を活用し、歳出効率化等の成果を検証

窓口・庶務業務以外で
の民間委託促進に係
る検討・方針決定

左記方針にもとづき、民間・外部委託を
促進

内閣府の標準委託仕様書(案)策定との連携

＞内閣府策定の標準委託仕様書(案)等について、モデル自治体における窓口業務のアウトソーシングへの活用可能性とその検証結果提供

・以下の汎用性のある先進的な改革に取り組む市町村数

①窓口業務のアウトソーシング
【208⇒416】
総合窓口の導入
【185⇒370】

②庶務業務の集約化
【143⇒286】

(いずれも
2014年10月
現在⇒2020
年度)

・歳出効率化の成果
(事後的に検証する指標)

地方行政分野における改革

《総務省自治行政局》

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|--------------|--|---|---|--|---|--|---------|---------------|--|
| | | 2016年度 | | 2017年度 | 2018年度 | | | | |
| | | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| 地方行政分野における改革 | <p>＜⑪民間の大胆な活用による適正な民間委託等の加速＞</p> <p>○標準的な業務フローに基づく業務マニュアル・標準委託仕様書の作成</p> | | | | | | | | |
| | <p>1. 地方自治体の窓口業務について民間事業者への委託可能な範囲の整理・地方自治体への通知発出改定</p> <p>2. 地方自治体の民間事業者への業務委託における偽装請負に関する留意点の整理・地方自治体への情報提供</p> <p>3. 地方自治体の公金債権回収業務について民間委託のための調査検討・地方自治体への情報提供</p> | <p>1. モデル自治体による業務フローの調査・分析 > 窓口業務に関するモデル自治体(6団体程度※先進自治体を含む)を公募・選定し、実務に即した業務フローやコスト等の調査・分析を行う。</p> <p>2. 委託可能な範囲・適切な民間委託の実施方法の整理 > 1と並行して関係省庁と連携・調整し、委託可能な範囲及び制度上の課題を整理するとともに、窓口業務等の適切な民間委託の実施方法を整理する。</p> | <p>3. 業務マニュアル・標準委託仕様書(案)の検討 > 1及び2の整理を踏まえ、標準的な業務フローと民間委託の為の業務マニュアル・標準委託仕様書(案)を策定する。</p> | <p>4. モデル自治体における試行 > モデル自治体において標準委託仕様書(案)等に基づいた窓口業務の民間委託を試行し、その結果(法令への適合性、業務効率化の程度、経費の削減効果等)を評価</p> <p>5. 標準委託仕様書(案)等の修正 > 4の評価及び総務省モデル自治体における検証結果を踏まえ、標準委託仕様書(案)等について、必要な修正を行う。</p> | <p>6. 修正標準委託仕様書等の全国展開 > 2017年度の修正を踏まえた標準委託仕様書等を全国展開し、地方自治体における窓口業務の民間委託の取組を推進するとともに、法令への適合性、業務効率化の程度、経費の削減効果等を検証。</p> | <p>総務省業務改革モデルプロジェクトとの連携 > 総務省モデル自治体における窓口業務のアウトソーシングについて、標準委託仕様書(案)等の提供とその活用可能性に係る検証結果反映</p> | | | <p>・標準委託仕様書等を使用するモデル自治体数【2016年度:6団体】</p> |
| | | 《内閣府公共サービス改革推進室》 | | | | 歳出効率化等の成果を検証 | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|--------------|---|--|--|--|---------------------------|--|--|------------------------------|
| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | | | | |
| 地方行政分野における改革 | <p>通常国会</p> <p>概算要求 税制改正要望等</p> <p>年末</p> <p>通常国会</p> | | | | | | | |
| | <p>＜⑫公共サービスの広域化＞</p> <p>○連携中枢都市圏の形成促進等</p> | <p>連携中枢都市圏制度開始 (2015年1月～)</p> <p>※各地方公共団体が作成する「地方版総合戦略」を踏まえ、形成数のKPIを設定</p> | <p>■地域において、相当の規模と中核性を備える圏域の中心都市が近隣の市町村と連携し、コンパクト化とネットワーク化により、人口減少・少子高齢社会においても一定の圏域人口を有し活力ある経済社会を維持するための拠点を形成することを目的とする。連携中枢都市圏を全国展開するため、圏域の形成に向けた取組を支援</p> | <p>圏域の形成について、以下の取組等を通じ推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・圏域形成の検討のために必要な経費について国費で助成(平成28年度概算要求2.2億円) ・各地域の先進的な地域連携に関する取組事例の情報提供 | <p>左記KPIを踏まえ、圏域の形成を推進</p> | <p>2018年度に、これまでの圏域形成に関する取組状況について、検証を行う。この検証を踏まえつつ、KPI達成に向けた取組を推進</p> | <p>・「連携中枢都市圏」の形成数【2015年度に目標圏域数を設定】</p> | <p>・社会人口増減など(事後的に検証する指標)</p> |
| | <p>○定住自立圏の形成促進等</p> | <p>定住自立圏制度開始 (2009年4月)</p> | <p>■中心市と近隣市町村が相互に役割分担し、連携・協力することにより、圏域全体として生活に必要な都市機能(行政サービス・民間サービス等)を確保することを目的とする。各圏域の取組を支援するとともに、新たな圏域の形成を推進</p> | <p>新たな圏域の形成を推進</p> <p>2015年度中に実施する取組成果の再検証の結果を踏まえ、人口減少克服の観点から地域連携が有効に機能する仕組みを構築</p> | <p>左記の新たな仕組みにより、取組を推進</p> | <p>・「定住自立圏」の協定締結等圏域数【2020年度までに140圏域】</p> | | |
| | <p>《総務省自治行政局・地域力創造グループ》</p> | | | | | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) | |
|----------------|---|--|-----------------|---|--------------|---------------------------|-----------------------------------|--|--|
| | | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | | | | | |
| | | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| | <⑬マイナンバー制度の活用や国による地方自治体のIT化・BPR推進に向けた取組促進策の提示等> | | | | | | | | |
| IT化と業務改革、行政改革等 | eガバメント関係会議の下に設置された「国・地方IT化・BPR推進チーム」(主査:政府CIO)において第一次報告書を2015年6月に取りまとめa | マイナンバー・個人番号カード活用によるオンラインサービス改革の検討(2015年度～2016年度) | | 検討を踏まえた対応方針の具体化 | 左記対応方針の実施 | | ・各種証明書のコンビニ交付の利用件数【目標は2016年度中に設定】 | ・マイナンバー制度の活用や国による地方自治体のIT化・BPR推進による経済・財政効果 (事後的に検証する指標) | |
| | 変革意欲のある自治体に対して、政府CIO等がアドバイスし、支援できる仕組みの整備に向けた活動を開始 | 国・地方IT化・BPR推進チーム 第一次報告書に沿って、申請等手続の現状調査、オンライン化・自治体の取組促進策の検討等を進め、追加・見直しの結論を得る。 | | 左記の結論について、自治体に周知徹底し、自治体の計画的な取組を促す | 左記に基づき引き続き実施 | | | | ・左記の取組促進策等に沿ってIT化・BPRに取り組んだ自治体数【目標は2016年度中に設定】 |
| | 地方公共団体のIT化に係る実態の把握、相談・支援の仕組みの方針を検討 | 政府CIO等によるアドバイスについて、変革意欲をより効果的に生かせる方法を検討しつつ、引き続き実施 | | 地方においてIT戦略等を推進する人材の育成やCIOの役割を果たす人材確保について実態に応じた支援の在り方につき検討、方針を決定 | | 左記の結果を踏まえ、自治体と連携しつつ、取組を促進 | | | ・自治体にアドバイスや意見交換等を行った件数【目標は2016年度中に設定】 |
| | | 国と自治体等間の情報・意見交換の場をITを活用して提供する仕組みを含め、各省の施策と連携しつつ、自治体を支援する仕組みの内容等を具体的に検討し、決定 | | 左記の結果を踏まえ、対策を実施 | | | | | |
| | | 上記の諸施策の経済・財政効果等の検証手法等の検討 | | | | | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) | |
|----------------|---|--|-----------------|--------|---------------------|---------|---------------|--|--|
| | | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | | | | | |
| | | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| | ＜⑭国のオンラインサービス改革、各府省庁の業務改革、政府情報システムのクラウド化・統廃合＞ | | | | | | | | |
| IT化と業務改革、行政改革等 | 世界最先端IT国家創造宣言(平成26年6月24日閣議決定)を2015年6月に改定 | 政府CIO等による各府省へのヒアリング・レビューや「政府情報システム改革ロードマップ」、「政府情報システムに係るコスト削減計画」の見直し等を通じ、世界最先端IT国家創造宣言等に基づく政府情報システムのクラウド化・統廃合、運用コストの削減に向けた取組等を着実に実施する。 | | | 左記の方針を踏まえ、引き続き取り組む。 | | | ・政府情報システム数 【2012年度:1450 目標:2018年度までに半減(現在、約63%の削減が可能となる見込み)】 | ・政府情報システム運用コスト 【2013年度:4000億円 目標:2021年度を目途に3割圧縮(現在約27%の圧縮が可能となる見込み)】 |
| | 《内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室、総務省行政管理局》 | | | | | | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | 2019 年度 | 2020 年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) | | | |
|----------------|---|-----------------|------------|------------|------------|-------------|---------------|---------------|--|--|---|
| | | 2016年度 | 2017 年度 | 2018 年度 | | | | | | | |
| IT化と業務改革、行政改革等 | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | | | | |
| | <p>＜⑮(地方)業務の簡素化・標準化、自治体クラウドの積極的展開＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「電子自治体の取組みを加速するための10の指針」のフォローアップ結果を具体的に取りまとめ、自治体に対し、助言・情報提供等を実施</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>国・地方IT化・BPR推進チームにおいて、自治体クラウドの取組事例(全国で54グループ)について、クラウド化業務範囲、関連経費詳細項目の比較等や、当該経費の削減方策・効果等について深掘り・分析し、その結果を整理・類型化</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>国・地方IT化・BPR推進チームにおける深掘り・分析及び整理・類型化の結果について、自治体に対し、具体的に分かりやすく提供し、助言を実施することにより倍増目標を達成</p> <p>クラウド化を通じた業務の簡素化・標準化の推進</p> </div> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>クラウド化していない自治体・システムの要因の検証</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>都道府県における情報システム運用コストの削減に向けた方策を調査・研究し、その結果を具体的に分かりやすく提供し、助言を実施</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>左記の要因の検証を踏まえ、クラウド化・業務改革を一層推進</p> <p>左記の提供・助言を引き続き実施</p> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>《総務省地域力創造グループ、内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室》</p> </div> | | | | | | | | | | <p>・クラウド導入市区町村数【2014年度: 550団体 目標: 2017年度までに倍増(約1,000団体)を図る】</p> |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|----------------|--------------------------|---|---|---|--------|---------|-----------------------------|--|
| | | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | | | | |
| IT化と業務改革、行政改革等 | | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">通常国会</div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">概算要求 税制改正要望等</div> | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">年末</div> | | | | |
| | | <⑯公共サービスイノベーションに係る先進事例の全国展開> | | | | | | |
| | | 「公共サービスイノベーション・プラットフォーム(PF)」において、優良事例の全国展開に向けた課題と対応を取りまとめ | 必要に応じ会合を開催し、公共サービスイノベーションPFで取りまとめた自治体等における先進的な取組を全国展開するためのアクションプランの実行、PDCA、必要な制度改正の検討について議論 | 左記の取組状況を踏まえ、更なる取組を検討・実施する | | | ・公共サービスイノベーションの進捗を検証するための指標 | ・公共サービスイノベーションによる経済・財政効果 (事後的に検証する指標) |
| | | 《内閣府政策統括官(経済社会システム担当)、公共サービスイノベーションPF参加省庁等》 | | | | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|----------------|---|-----------------|----|--------|--------|---------|---|--------------------|
| | | 2016年度 | | 2017年度 | | | | |
| IT化と業務改革、行政改革等 | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| | <p>＜⑰地方税における徴収対策の推進＞</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>徴収事務の着実な実施(滞納整理機構などの徴収事務の共同処理を含む。)及び納税者が税を納付しやすい納税環境の整備を、地方団体に要請。</p> </div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■滞納整理機構などの徴収事務の共同処理を行っている団体の効果や課題について深掘り・分析し、その結果を整理・類型化</p> <p>■インターネット公売など、効率的・効果的な滞納整理の手法を導入した団体の効果や課題について整理・分類</p> <p>■電子申告の推進や収納手段の多様化(コンビニエンスストア、クレジットカードの活用等)に取り組む団体の効果や課題について整理</p> </div> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地方団体が行っている先進的な徴収対策の取組を調査・研究した結果を整理・類型化して、具体的に分かりやすく提供。</p> </div> <div style="width: 25%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>左記により、効果的な徴収対策の全国展開</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">《総務省自治税務局》</p> | | | | | | | |
| | | | | | | | ・地方税の徴収率【向上】(2015年度中に基準財政収入額算定上の「標準的な徴収率」を設定) | ※徴収率については実績をモニタリング |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) | |
|---------------------|--|---|--|------------------------------------|----------------|---------|---------------|---------------|--|
| | | 2016年度 | | 2017年度 | | | | | 2018年度 |
| I IT化と業務改革、行政改革等 | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | | |
| | <p>＜⑱国・地方の公務員人件費の総額の増加の抑制＞</p> <p>○国家公務員</p> | | | | | | | | |
| | <p>国家公務員の総人件費について、「国家公務員の総人件費に関する基本方針」(平成26年7月25日閣議決定)を決定。</p> | <p>国家公務員の給与については、労働基本権制約の代償措置として民間準拠で行われる人事院勧告制度を尊重するとの基本姿勢の下、決定。</p> | <p>人事院勧告が行われた場合、給与については、人事院勧告制度を尊重するとの基本姿勢に立ち、国政全般の観点から検討を行った上で取扱いを決定する。</p> | <p>計画期間を通じ、左記の方針を踏まえ、引き続き取り組む。</p> | | | | | <p>・総人件費の額 ・総定員数 (事後的に捕捉する指標)</p> |
| | <p>《内閣官房内閣人事局》</p> <p>○地方公務員</p> | <p>人事院勧告 ※人事院勧告の有無については年度によって異なる。</p> | <p>国家公務員の総人件費について、地域間・世代間の給与配分を見直す「給与制度の総合的見直し」の実施や定員合理化等を行うことなどにより、人件費の抑制を図る。</p> | <p>定員要求</p> | <p>定員査定・決定</p> | | | | <p>・総人件費の額 ・総定員数 ・給与制度の総合的見直しの取組自治体数 (事後的に捕捉する指標)</p> |
| | <p>地方公務員については、各地方公共団体において、「給与制度の総合的見直し」に着実に取り組むとともに、各地方公共団体の給与事情等を踏まえ、給与の適正化を図る。</p> | <p>人事委員会 勧告</p> | <p>地方公務員の給与改定については、各地方公共団体において、地方公務員法の趣旨に沿って、各団体の議会において条例で定める。</p> | <p>計画期間を通じ、左記の方針を踏まえ、引き続き取り組む。</p> | | | | | |
| | <p>《総務省公務員部》</p> | | | | | | | | |

経済・財政再生計画 その他の検討項目

<「税制抜本改革法」を踏まえた地域間の税源の偏在を是正する方策、課税自主権の拡充> 《総務省》

「税制抜本改革法」を踏まえ地域間の税源の偏在を是正する方策を講ずるとともに、地方自治体が自主性を発揮できるよう課税自主権の拡充を図る。

■地域間の税源の偏在の是正については、平成26年度与党税制改正大綱等に沿って、具体的な措置を講じることとなり、この方針に従って、関係団体の意見も踏まえながら、税制改正プロセスの中で検討

<平成26年度与党税制改正大綱>

○消費税率10%段階においては、法人住民税法人税割の地方交付税原資化をさらに進める。また、地方法人特別税・譲与税を廃止するとともに現行制度の意義や効果を踏まえて他の偏在是正措置を講ずるなど、関係する制度について幅広く検討を行う。

<平成27年度与党税制改正大綱>

○平成26年度与党税制改正大綱における消費税率10%段階の地方法人課税の偏在是正については、平成28年度以後の税制改正において具体的な結論を得る。

■課税自主権の拡充については、その一層の拡充を図る観点から、必要な制度の見直しを行うとともに、情報提供など地方団体への支援を行う。法定外税の導入件数等については、毎年度、調査の上、公表。

<地方単独事業について、過度な給付拡大競争を抑制していくための制度改革> 《制度所管府省庁》

■地方単独事業について、過度な給付拡大競争を抑制していくための制度改革を進める。国が果たすべき役割の範囲を制度上明確にする際、地方自治の原則に十分配慮する。

例えば乳幼児医療費などの一部負担金減免については、その在り方について、現行制度の趣旨や国保財政に与える影響等を考慮しながら、厚生労働省において議論を続けていくこととしている。

<地方交付税制度改革に合わせた留保財源率についての必要な見直し> 《総務省》

■地方交付税制度の改革に合わせて、留保財源率については必要な見直しを検討する。

経済・財政再生計画 その他の検討項目

<共助社会づくり> 《内閣府》

■「共助社会づくり懇談会」において取りまとめられた報告書「共助社会づくりの推進について～新たな「つながり」の構築を目指して～」を踏まえ、共助社会づくりを推進する。

<ソーシャル・インパクト・ボンドの活用拡大> 《行政・民間》

■貧困・失業対策をはじめとする幅広い分野において、官民連携によるソーシャル・インパクト・ボンド等の活用を拡大する。

<エビデンスに基づくPDCAサイクルの抜本的強化>

<(行政事業レビュー)定量的な成果目標設定の徹底と一層厳格な自己点検>

<(行政改革推進会議)府省横断的・継続的な検証の推進>

《内閣官房 行政改革推進本部事務局》

■経済・財政一体改革推進委員会の取組と連携しつつ、各府省庁の事業の必要性、効率性、有効性の自己検証・点検を進める。

4. 文教・科学技術、外交、
安全保障・防衛等
(文教・科学技術)

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|---|--|---|--------|---|--|-----------------------------|---|---------------|
| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 2016年度 | 2017年度 | 2018年度 | | | | |
| ①少子化の進展を踏まえた予算の効率化、エビデンスに基づいたPDCAサイクル | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| | <p>< i 学校規模適正化と学校の業務効率化 ></p> <p>【学校規模適正化】</p> | | | | | | | |
| | 学校規模の適正化に関する各自治体の状況調査・公表 <small>《文部科学省、都道府県、市町村》</small> | 学校規模の適正化に関する各自治体の進捗状況について、統廃合等の件数・経費を含め、調査・公表 | | | 取組推進・拡大 得られたデータを教職員定数の見直し作成・提示を含む政策に漸次活用 取組状況とその成果について中間検証 | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加修正の上、推進・拡大 | | |
| | 統合による魅力ある学校づくり等のモデル創出に向けた委託研究を実施 <small>《文部科学省から市町村に委託》</small> | | | | 取組推進 取組を通じた研究成果の分析、支援策への反映 取組状況とその成果について中間検証 | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 | ・学校の小規模化について対策の検討に着手している自治体の割合 【2018年度2/3】 【2020年度100%】 | |
| | 学校規模の適正化の好事例を継続的に全国展開、各自治体の取組促進 <small>《文部科学省、都道府県、市町村》</small> | | | | 取組推進。取組状況とその成果について中間検証 | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 | | |
| 時限的な教員加配等の統合校に対する支援 <small>《文部科学省》</small> | | | | 取組推進 実施状況を教職員定数の見直し作成・提示に漸次活用 取組状況とその成果について中間検証 | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|---------------------------------------|--------------------------|--|---|--------|--------------------------------------|------------------------------------|--|--|---------------|
| | | 2016年度 | | 2017年度 | 2018年度 | | | | |
| ①少子化の進展を踏まえた予算の効率化、エビデンスに基づいたPDCAサイクル | | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| | 【学校の業務改善】 | | | | | | | | |
| | | <p>教員の業務効率化を進め、教育指導により専念できるよう、教員以外の専門スタッフの学校への配置等を促進</p> | | | <p>取組推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証</p> | <p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p> | <p>・校務支援システムの導入率 【2018年度88% 【2020年度90%</p> | <p>・教員の総勤務時間及びそのうちの事務業務の時間 (2013年調査：週53.9時間、5.5時間) 【2017年調査においていずれも2013年比減を目標】</p> | |
| 《文部科学省、都道府県、市町村》 | | | | | | | | | |
| | | <p>学校現場の業務改善ガイドラインの全国普及</p> | <p>ICT活用による校務改善など学校現場の業務改善に関する取組推進、好事例の全国展開、各自治体の取組促進</p> | | <p>取組推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証</p> | <p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p> | | | |
| | 《文部科学省、都道府県、市町村》 | | | | | | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|---|---|-----------------|----|--|---|-----------------------------------|---------------|---------------|
| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 2016年度 | | 2017年度 | | | | |
| ① 少子化の進展を踏まえた予算の効率化、エビデンスに基づいたPDCAサイクル | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| | < ii エビデンスの提示 > | | | | | | | |
| | <p>学校・教育環境に関するデータ(自治体別の児童生徒1人当たりの教職員人件費、学校の運営費、学校の業務改善の取組、学級数別学校数等)について、有識者の協力を得つつ、比較可能な形で調査、公表</p> <p>《文部科学省、都道府県、市町村》</p> | | | | <p>調査を推進・拡大 >得られたデータは都道府県別に「見える化」するとともに、教職員定数の見直し作成・提示を含む政策に漸次活用 取組状況とその成果について中間検証</p> | <p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加修正の上、推進・拡大</p> | | |
| <p>教育政策に関する実証研究の枠組み・体制等について研究者・有識者の協力を得つつ検討</p> <p>《文部科学省、都道府県、市町村》</p> | | | | <p>教育政策に関する実証研究を開始 > 各種の加配措置、少人数教育、習熟度別指導等多様な教育政策に関する費用効果分析を含め、研究者・有識者からなる実効性ある研究推進体制の下で、一定数の意欲ある自治体等の協力を得て実施 > 中期の継続的な縦断研究及び短期の研究を実施 1)多面的な教育成果・アウトカムの測定 ・知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習意欲等 ・コミュニケーション能力、自尊心・社会性等の非認知能力 ・児童生徒の行動 2)子供の経時的変化の測定 3)学校以外の影響要因の排除等も考慮</p> | <p>実証研究を計画的に実施 >得られた研究成果は成果や費用、政策が実施される背景にある環境要因を「見える化」するとともに、それらを総合的に考慮して教職員定数の中期見直し作成を含む政策形成に漸次活用</p> | <p>報告、公表</p> | <p>報告、公表</p> | |
| <p>全国学力・学習状況調査の研究への活用について、「全国的な学力調査に関する専門家会議」において、文部科学省からの委託研究等以外でも大学等の研究者が詳細データを活用できるよう、提供する詳細データの内容やデータの管理方法、研究成果の公表の在り方など、具体的な貸与ルールを検討・整備</p> <p>《文部科学省》</p> | | | | <p>全国学力・学習状況調査の大学等の研究者による研究への活用推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証</p> | <p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加修正の上、推進・拡大</p> | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|--|--|-----------------|--------|--|---|---------|---|------------|
| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | | 2016年度 | 2017年度 | | | | |
| ① 少子化の進展を踏まえた予算の効率化、エビデンスに基づいたPDCAサイクル | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| | <p>< iii 教職員定数の見通し ></p> <p>教職員定数の中期見通しを策定する前提となる事柄について整理</p> <p>《文部科学省》</p> <p>➢ 各種加配措置等の効果について、既存の関連データを十分に活用しつつ、研究者・有識者の協力を得て検討・検証。その結果明らかになった課題は、上記 ii の実証研究に活用</p> <p>➢ 少子化の進展（児童生徒数、学級数の減等）及び小規模化した学校の規模適正化の動向、学校の課題（いじめ・不登校、校内暴力、外国人子弟、障害のある児童生徒、子供の貧困、学習指導要領の全面改訂への対応等）に関する客観的データ等の上記 ii のデータ収集及び実証研究の進展、地方自治体の政策ニーズ等を踏まえた予算の裏付けのある教職員定数の中期見通しを策定、公表、各都道府県・指定都市に提示</p> | | | | | | | |
| | <p>< iv ICTを活用した遠隔授業拡大 ></p> <p>モデル事業を通じて高校における遠隔授業実践例を拡大</p> <p>《文部科学省、都道府県、市町村》</p> | | | | | | | |
| | | | | <p>高校への普及促進</p> <p>高校実践例を踏まえた課題整理、中間検証</p> | <p>データ収集、実証研究の進展に応じ、必要に応じ中期見通しを改定、公表、提示</p> <p>学校・教育環境に関するデータや教育政策の成果及び費用、背景にある環境要因を総合的に考慮して予算要求を行い、教育におけるPDCAサイクルを確立</p> <p>中学校等の授業充実に向けた活用の検討を含め、中間検証を踏まえ、取組内容を追加修正の上、推進・拡大</p> | | <p>(i ~ iv 通じて)</p> <p>・知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・人間性等の資質・能力の調和がとれた個人を育成し、OECD・PISA調査等の各種国際調査を通じて世界トップレベルの維持・向上を目標とするなど、初等中等教育の質の向上を図る (参考)PISA2012: OECD加盟国中1～2位</p> | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 集中改革期間 | | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|---------------------------------------|---|-----------------|--------|------|--------|--------|---------|--|---|
| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | | 2016年度 | | 2017年度 | | | | |
| ①少子化の進展を踏まえた予算の効率化、エビデンスに基づいたPDCAサイクル | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | | |
| | <p>< v 大学間の連携や学部等の再編・統合の促進 ></p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>国立大学法人運営費交付金の重点支援による取組の構想(大学間連携、学部等の再編統合を含む)を提案</p> <p>重点支援の対象とする取組構想を選定</p> <p>《国立大学、文部科学省》</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>第3期中期目標期間を通じて取組実施</p> <p>各国立大学の取組構想の進捗状況を確認、各国立大学ごとに予め設定した評価指標を用いて、その向上度合いに応じて段階的な評価を実施し、運営費交付金の重点配分に反映(*取組構想は状況に応じ随時追加・変更)</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>第3期中期目標期間を通じて推進</p> <p>2019年度暫定評価において達成見込みを確認</p> </div> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>暫定評価を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p> </div> | | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・学部・学科改組を含む改革構想を提案した国立大学のうち当該構想を実現させたものの割合【2018年度50%】【2020年度90%】 ・大学間連携を含む改革構想を提案した国立大学のうち当該構想を実現させたものの割合【2018年度60%】【2020年度90%】 | <p><後掲></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等教育の質向上に関する指標 |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) | |
|--|--|--|--------|--|--|-----------------------------|-----------------------------|---|--------|
| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | | 2016年度 | | | | | | 2017年度 |
| | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | | |
| ②民間資金の導入促進 | < i 国立大学法人運営費交付金を重点配分するインセンティブ導入 > | | | | | | | | |
| | 各国立大学において、取組構想の成果を検証する評価指標を設定。民間資金の獲得割合の上昇も一つの指標とする。 | 各国立大学の取組構想の進捗状況を確認、各国立大学ごとに予め設定した評価指標を用いて、その向上度合いに応じて段階的な評価を実施し、運営費交付金の重点配分に反映 | | | 第3期中期目標期間を通じて推進 2019年度暫定評価において達成見込みを確認し、民間資金獲得に向けた一層の努力を促す方策を検討 | | 暫定評価を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 | | |
| | 《国立大学、文部科学省》 | | | | | | | | |
| | < ii 国立大学の財源の多様化 > | | | | | | | | |
| | 国立大学経営力戦略に基づき、各国立大学において、可能な限り民間との共同研究・受託研究に関する目標を設定 | 各国立大学における研究者、URA、知財取得・活用、設備利用の支援スタッフ等により産学連携を総合的に企画推進する環境を整備 | | | 第3期中期目標期間を通じて推進 取組状況とその成果について中間検証 | | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 | ・大学等と民間企業との共同研究件数・受入金額(2013年度:18千件、390億円) 【2018年度:2013年度比1.3倍】 【2020年度:2013年度比1.5倍】 | |
| | 《国立大学》 | | | | | | | | |
| 産学官連携推進上のリスク要因を各大学が適切にマネジメントできる方策について検討 | 各国立大学が共同研究締結時の不実施補償、秘密保持等の知的財産の取扱いにより共同研究等を制約されないよう、各国立大学において共同研究等に関する戦略策定 | | | 第3期中期目標期間を通じて産学連携の取組を推進 取組状況とその成果について中間検証 | | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 | | | |
| 《文部科学省、国立大学》 | | | | | | | | | |
| 国立大学における余裕金の運用範囲の拡大、収益を伴う事業の範囲の明確化等について検討・制度整備 | 第3期中期目標期間を通じて財源多様化の取組を推進 取組状況とその成果について中間検証 | | | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 | | | | | |
| 《文部科学省、国立大学》 | | | | | | | | | |
| 大学と民間企業等との共同研究における間接経費の必要性に係る算定モデル策定について検討 | 各国立大学において、民間企業等との共同研究における間接経費の在り方について検討し、共同研究契約等に反映 | | | 第3期中期目標期間を通じて産学連携の取組を推進 取組状況とその成果について中間検証 | | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 | | | |
| 《文部科学省、国立大学》 | | | | | | | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|-------------|--|---|----|--------|--|------------------------------------|---|---------------|---------------|
| | | 2016年度 | | 2017年度 | 2018年度 | | | | |
| ② 民間資金の導入促進 | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | | |
| | <p>< v 国立大学法人に対する寄附金 ></p> <p>個人からの寄附金に係る所得控除・税額控除の選択制導入について検討(税制改正要望)</p> <p>《文部科学省、国立大学》</p> | <p>各国立大学において寄附金収入の拡大に向けた専門スタッフの配置や寄附金獲得に向けた戦略策定</p> | | | <p>取組状況とその成果について中間検証し、寄附金獲得に向けた一層の努力を促す方策を検討</p> | <p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p> | <p>・国立大学における寄附金受入額(2014年度:約0.07兆円) 【2018年度:2014年度比1.2倍】 【2020年度:2014年度比1.3倍】</p> <p>(① v、i ~ v 通じて)</p> <p>・世界大学ランキング:2018年、2020年、2023年を通じて、トップ100に我が国大学10校以上とする、 ・第3期国立大学法人中期目標・計画の達成状況について、2019年度暫定評価において達成見込みを確認し、2021年度に中期目標を全法人において達成することを目標とする、 など高等教育の質の向上を図る。</p> | | |

*国立大学について財政健全化に資する観点からも検討が必要

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|---|--|--|------------------------------------|--|--------|--|---------------|---------------|
| | 2016年度 | | 2017年度 | 2018年度 | | | | |
| | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| <p>＜ i 大学改革と競争的研究費改革の一体的推進 ＞</p> | | | | | | | | |
| <p>③ 予算の質の向上・重点化</p> <p>大学改革の主な取組</p> <p>競争的研究費改革と一体的に検討・実施</p> | <p>国立大学 経営力戦略の着実な 実行</p> <p>《文部科学省、国立大学》</p> | <p>国立大学法人運営費交付金において、「学長の裁量による経費」を区分し、学長のリーダーシップによる改革の取組を推進</p> | | <p>第3期中期目標期間を通じて 推進 取組状況とその成果について2018年度に検証</p> | | <p>検証を踏まえ、 取組内容を追加・修正の上、 推進・拡大</p> | | |
| | <p>特定研究大学(仮称)制度の検討・制度整備</p> <p>《文部科学省》</p> | | | <p>第3期中期目標期間を通じて推進 2019年度暫定評価において達成見込みを確認</p> | | <p>暫定評価を踏まえ、 取組内容を追加・修正の上、 推進・拡大</p> | | |
| | <p>制度検討</p> <p>《文部科学省、国公立大学》</p> | | <p>卓越研究員制度を実施</p> | <p>第5期科学技術基本計画を通じて推進 取組状況とその成果について中間検証</p> | | <p>中間検証を踏まえ、 取組内容を追加・修正の上、 推進・拡大</p> | | |
| | <p>産学官からなる検討会において検討</p> <p>《文部科学省、国公立大学》</p> | | <p>国公立大学における卓越大学院(仮称)具体化に向けた取組</p> | <p>卓越大学院(仮称)の具体化に向けた取組、運用開始 運用状況とその成果について中間検証</p> | | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|---|--|-----------------|--------|---|--------|------------------------------------|---------------|---------------|
| | 2016年度 | | 2017年度 | 2018年度 | | | | |
| | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| <p>③ 予算の質の向上・重点化</p> <p>競争的研究費改革の主な取組</p> <p>大学改革と一体的に検討・実施</p> | <p>文部科学省及び内閣府の大学等向け競争的研究費(新規採択案件)について間接経費30%措置</p> <p>《CSTI、文部科学省》</p> | | | <p>第5期科学技術基本計画を通じて推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証</p> | | <p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p> | | |
| | <p>人事給与システム改革の状況を踏まえ、直接経費からの人件費支出の柔軟化について検討</p> <p>《文部科学省、国立大学》</p> | | | <p>第5期科学技術基本計画を通じて順次実施・拡大 取組状況とその成果について中間検証</p> | | <p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p> | | |
| | <p>科学研究費助成事業の改革を推進</p> <p>《文部科学省》</p> | | | <p>第5期科学技術基本計画を通じて推進 取組状況とその成果について中間検証</p> | | <p>中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大</p> | | |
| | | | | | | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) | |
|---|--|--|------------------------------|---|---|-----------------------------|---|------------|-----------------------------|
| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | | 2016年度 | 2017年度 | | | | | 2018年度 |
| ③ 予算の質の向上・重点化 | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・クロスアポイントメント適用教員数 (2015年現在92人) 【2018年度160人】 【2020年度200人】 ・国立大学の若手(40歳未満)の本務教員数 (2013年度現在16千人) 【2018年度:2015年度比+300人】 【2021年度:2015年度比+600人】 ・購入した研究設備の共用が可能な事業制度数 (2015年度:19) 【2018年度:2015年度比1.3倍】 【2020年度:2015年度比1.5倍】 ・合算使用が可能な事業制度数 (2015年度:19) 【2018年度:2015年度比1.3倍】 【2020年度:2015年度比1.5倍】 ・共用システムを構築した研究組織数 【2018年度70】 【2020年度100】 | (i、ii 通じて) | |
| | < ii 有能な人材の流動化 > 年俸制・クロスアポイントメント制度等、人事給与システム改革と業績評価に関する第3期中期目標期間を通じた計画を各国立大学において策定 《国立大学》 | | 各国立大学において計画に沿って人事給与システム改革を推進 | | 第3期中期目標期間を通じて推進 2019年度暫定評価において達成見込みを確認 | | | | 暫定評価を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 |
| | < iii 研究設備の共用化と研究費の合算使用の促進 > 競争的資金における研究機器の共用の取扱い(平成27年4月)をフォローアップ・徹底。競争的資金以外の研究費も同様の取扱いができるよう検討 《CSTI》 | | 研究設備の共用が可能な範囲を順次拡大 | | 第5期科学技術基本計画を通じて推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証 | | | | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 |
| | 競争的資金における複数研究費の合算使用の取扱い(2015年4月以降公募案件から)をフォローアップ・徹底。研究機器等を購入する場合の合算使用の条件について検討。競争的資金以外の研究費も同様の取扱いができるよう検討 《CSTI》 | | 研究費の合算使用が可能な範囲を順次拡大 | | 第5期科学技術基本計画を通じて推進・拡大 取組状況とその成果について中間検証 | | | | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 |
| 研究設備・機器の新たな共用システムの導入方針について検討 《文部科学省》 | | 研究設備・機器を研究組織単位で一元的にマネジメントする共用システムを導入するとともに、産学官で共用可能な研究施設・設備等を整備・運用 | | 第5期科学技術基本計画を通じて共用システムを推進・拡大するとともに、研究施設間のネットワークを構築(プラットフォーム化) 取組状況とその成果について中間検証 | | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|---------------|---------------------------------|--|----|--|--------|-----------------------------|---------|---|---------------|
| | | 2016年度 | | 2017年度 | 2018年度 | | | | |
| ③ 予算の質の向上・重点化 | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | | |
| | < iv 総合科学技術・イノベーション会議の司令塔機能強化 > | | | | | | | | |
| | 第5期科学技術基本計画策定 《CSTI》 | 科学技術基本計画の方向性の下、科学技術イノベーション総合戦略に基づき、科学技術イノベーション予算戦略会議により予算の重点化、各府省庁の取組連携確保、調整 | | 第5期科学技術基本計画を通じて推進 取組状況とその成果について中間検証 | | 中間検証を踏まえ、取組内容を追加・修正の上、推進・拡大 | | (i ~ iv 通じて) ・研究の質向上に関する指標 ➢被引用回数トップ10%論文の割合： 2018～2020年の我が国の総論文数に占める被引用回数トップ10%論文数の割合を10%以上とすることを目標 | |

4. 文教・科学技術、外交、
安全保障・防衛等
(外交、安全保障・防衛)

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | | 集中改革期間 | | | | 2019年度 | 2020年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|--------------------------|----------------------------|--|---|--|--------|-----------------------------------|---|---|---------------|
| 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | | 2016年度 | | 2017年度 | 2018年度 | | | | |
| | | 通常国会 | 概算要求 税制改正要望等 | 年末 | 通常国会 | | | | |
| ① ODAの適正・効率的かつ戦略的活用 | | | ＜ i PDCAサイクルの強化及び評価等に関する情報公開の促進＞ | | | | | | |
| | 開発協力大綱の閣議決定 | ○可能な限り定量的な評価に向けた改善 | | 課題別の標準的指標例の作成 | | 課題別の標準的指標例の改定、アップデート | | 課題別の標準的指標例を設定した割合【100%】、改定割合【必要に応じ、目安年10%】 インパクト評価の実施件数【5年間で10件以上】 外部評価の着実な実施【10億円以上の事業について100%】 ODA「見える化」サイト掲載案件の更新数【500案件以上/年】 インフラシステムの受注額【2020年に30兆円】 | |
| | | ○外部評価への多様な主体の参加及び評価結果の活用を促進 | | 開発効果の検証が必要な事業(新たな手法、普及等)へのインパクト評価の実施 | | 事業評価外部有識者委員会による評価プロセス等のレビューの定期的実施 | | | |
| | ○ODA「見える化」サイトの活用を促進 | | ODA「見える化」サイトの随時更新 | | | | | | |
| | 《外務省》 | | ＜ ii 民間部門等の資源の活用及び経済活動を拡大するための触媒としてのODAの推進＞ | | | | | | |
| | 開発協力大綱の閣議決定 | ○官民連携による開発協力を推進 | | 「質の高いインフラ」の展開や中小企業等の海外展開支援等によって、民間部門主導の成長を促進し、開発途上国の経済発展を一層力強くかつ効果的に推進するとともに、日本経済の力強い成長にもつなげていく。 | | | | | |
| | 《外務省》 | | | | | | | | |
| ② 国際機関への拠出 | | | ＜国際機関への拠出について評価の基準・指標を明確化し、多面的・定量的な評価による拠出の妥当性検証＞ | | | | | | |
| | 国際機関評価の実施、結果を平成28年度概算要求に反映 | 毎年予算概算要求に向け、可能な限り定量的・多面的な国際機関評価を実施して拠出の妥当性を検証し、その結果を翌年度概算要求に反映 | | | | | | | |
| | 《外務省》 | | | | | | 個別プロジェクトにイヤマークする任意拠出金について、プロジェクト毎の成果目標を公表すると共に、達成状況をフォローアップ | | |
| | 《外務省》 | | | | | | 評価方法や評価対象等につき外部有識者の意見を聴取する等して、更なるPDCA強化・透明性確保を推進 | | |
| | 《外務省》 | | | | | | | | |

経済・財政再生計画 改革工程表(案)

| | 集中改革期間 | | | | | 2019年度～ | KPI (第一階層) | KPI (第二階層) |
|-------------|---|------|--------|------|--------|---------|---|--|
| | 2014・2015年度 《主担当府省庁等》 | | 2016年度 | | 2017年度 | | | |
| ③ 防衛関係費の効率化 | 通常国会 | 概算要求 | 年末 | 通常国会 | | | ①長期契約を活用した装備品等及び役務の調達 ②維持・整備方法の見直し ③装備品のまとめ買い ④民生品の使用・仕様の見直し、等による縮減見込額【累積額の増額】 ⑤プロジェクト管理手法の導入 プロジェクト管理の重点対象装備品に選定される品目数(現時点で12品目が対象に選定されており、そのうち4品目の総額は8.2兆円)【増加】 ⑥PBLの適用拡大 PBL導入による維持・整備コストの縮減見込額(平成27年度予算:15億円、平成28年度(概算要求):93億円の縮減見込み)【累積額の増額】 ⑦随意契約の適用可能範囲の類型化 随意契約の適用件数(2013年度調達実績を新規類型案に当てはめたところ、1者応募・応札となっていた約14,000件中約6,000件が随意契約へ移行できたと推計)【拡大】 ⑧特別研究官の活用による新しい契約制度の構築 特別研究官による新たな制度の提案数【拡大】 ⑨安全保障技術研究推進制度の推進 安全保障技術研究推進制度により採択した研究課題の件数(2015年度実績では9件)【増加】 | 2014年度～2018年度において7,000億円程度の縮減を目標とする。 (集中改革期間において約4,810億円の縮減を目標とする)※ |
| | <中期防衛力整備計画に基づく効率的な防衛力整備による費用対効果の向上> 中期防衛力整備計画に基づく調達改革等による効率化の実施 中期防衛力整備計画及び経済・財政再生計画を踏まえ、防衛力整備の着実な推進とともに、調達改革等を通じ、一層の効率化・合理化を徹底した防衛力整備に努める。 <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 新設された防衛装備庁を中心に調達改革の一層の推進 i)プロジェクト管理手法の導入 ii)PBLの適用拡大 iii)随意契約の適用可能範囲の類型化、iv)特別研究官の活用による新しい契約制度の構築 v)安全保障技術研究推進制度の推進 </div> | | | | | | | |
| | 《防衛省、防衛装備庁》 | | | | | | | ※「中期防衛力整備計画(2014年度～2018年度)」(平成25年12月17日閣議決定)に基づく縮減目標。金額はいずれも契約ベース |